

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 14 No.13 2012年7月15日号

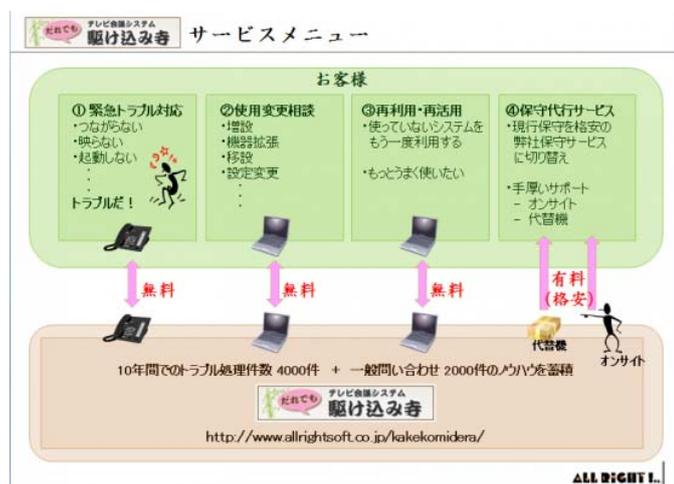
編集: editor@cnar.jp 広告: pr@cnar.jp 読者登録: <http://cnar.jp>

Copyright 2012 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

オーライソフトウェア、テレビ会議システム障害時の無料新サービスを開始

オーライソフトウェア株式会社(東京都千代田区)は、同社の保守契約ユーザ以外の一般テレビ会議システムユーザを対象にトラブル対応の緊急相談用ヘルプディスクサービスを開始した。(6月18日)



ヘルプディスクサービス(オーライソフトウェア 資料)

テレビ会議を行う際の、つながらない、映らない、聞こえないなどのトラブルは、会議にロスタイムをもたらすという。それらの原因は、詳しい担当者が近くにいなかったり、オペレーションや設定ミスに起因した単純トラブルなどが過半数という。

オーライソフトウェアとしては、手持ちのテレビ会議システムを見直し、有効活用し、会議の生産性を向上させ、さらに増設需要や買い換え需要を喚起することが目的。同社は、この10年間で1300社以上、トラブル対応4000件以上のノウハウを使って問題解決にあたるとしている。

ヘルプディスクは、直通電話、ホームページの問い合わせから受け付けている。増設・移設・設定変更などの使用変更相談(無料)、運用手順・教育などの再有効活用相談

(無料)、保守代行サービス(有料)も受け付ける。マルチベンダ環境に対応し、現行保守契約料金の約半額できめ細かいスピーディーな対応が特長という。

(プレスリリース: Dreamnews 掲載)

パナソニック ソリューションテクノロジーのWeb会議サービス、Android対応

パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社(東京都港区)は、同社のWeb会議サービス「リアルタイムコラボレーション」に「Android対応オプション」を追加。(6月15日)



リアルタイムコラボレーション Android対応 (パナソニック ソリューションテクノロジー資料)

リアルタイムコラボレーションは、パナソニックグループにおける標準Web会議システムとして、社員 約10万人規模の利用で培った信頼と実績をもつWeb会議サービス。

今回Android対応により、タブレット端末やWi-Fiなどモバイル環境でのリアルタイムコラボレーションの活用が広がり、コミュニケーション力の向上、現場の機動力強化につながると同社では期待する。

リアルタイムコラボレーションの提供方法は、パブリッククラウド、プライベートクラウド、オンプレミスなど、ユーザの利用目的、規模に応じた運用が可能となっている。「ルーム2」(同時接続ID数2)利用の場合の金額は、月額21,000円(税込み)

から手軽にスタートできるとしている。

同製品は、パナソニックの総合展示会「SOLUTION Japan 2012」に出展されている。(7月11日から全国で開催、詳細同社ウェブサイト確認要。)

NTT アイティのオンプレミス型 Web 会議システム、機能拡張、音声品質、操作性向上、Android と Mac 対応

NTT アイティ株式会社(横浜市中区)は、同社の Web 会議システム「ミーティングプラザ」のオンプレミス版の機能拡張を行い、7月2日より「ミーティングプラザ システム V6.1」の販売を開始すると発表。(6月19日)

ミーティングプラザ システム V6.1 は、すでにクラウドサービスで提供している Android 端末や Mac からの使用を、オンプレミスのシステムからも可能とするもの。加えて、音声品質の改良、操作性向上を図り、さらに使いやすい環境を提供するとしている。



Android 端末表示例 (NTT アイティ 資料)

具体的な特長としては以下の通り。(1)Android 端末からの接続に対応。追加のゲートウェイサーバが必要だが、PC と同様に最大 32 拠点までの拠点映像表示やアプリケーション画面共有機能などが可能。

(2)Mac からの接続に対応。PC と同様に最大 32 拠点までの拠点映像表示、チャットによるテキスト通信、Web ページ共有機能などが可能。



Mac 表示例 (NTT アイティ 資料)

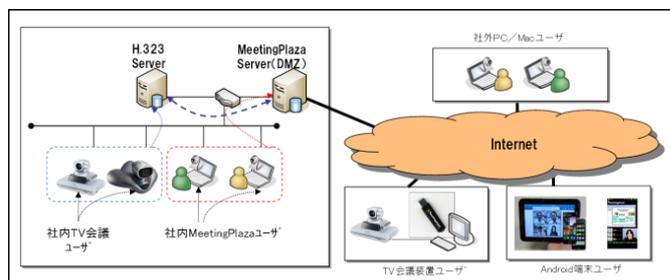
(3)音声品質の向上:G.722 の採用にくわえ、独自の G.722 多地点向け動的ミキシング技術により多人数発話時でも追加帯域なしでの高音質会議が可能という。

(4)動作対象ブラウザを追加:新たに Google Chrome(16.0)、Internet Explorer 64 ビットバージョンが動作対象ブラウザに追加となる。

(5)アプリケーション共有の機能強化:アプリケーション共有の内部方式の追加により、アプリケーション共有時のビデオ映像表示を改善。通信環境にあわせて従来方式の選択も可能。

(6)表示映像の最小化機能を追加:拠点映像を最小化することで画面のレイアウトの自由度が向上。

(7)常設会議室 TeamRoom への簡単な入室方法の追加: TeamRoom 会議室に直接入室できるログイン URL を生成することができる。ブックマークやリンクアイコンなどをクリックするだけで入室が可能になる。



利用イメージ (NTT アイティ 資料)

価格は、オープン。基本パッケージライセンスは、最大同時接続数 16 本で 140 万円(税別)より提供。販売目標は、年間 100 システム。

ミーティングプラザサービスは、3,000社以上の導入実績をもつ。オンプレミス版では、クラウドサービスでは対応できない大規模多地点構成や他社のテレビ会議システムとの連携などにも対応している。

VTV ジャパン、RADVISION 社製 HD 対応テレビ会議専用端末 XT1000 シリーズの旗艦モデル「RADVISION SCOPIA XT1200」の販売を開始

RADVISION 社の国内正規代理店である VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)は、RADVISION 社製 HD 対応テレビ会議専用端末 XT1000 シリーズのフラッグシップモデル「RADVISION SCOPIA XT1200」の販売を6月20日より開始。(6月20日)



SCOPIA XT1200(VTV ジャパン 資料)

SCOPIA XT 1200 は、さまざまなメーカーのテレビ会議端末との混在会議を可能にする SCOPIA XT1000 の後継機種。

特長としては、以下の通り。(1)フル HD(1080p/30fps)送受信に対応。(2)最新のフルバンド対応音声プロトコル G.711 を採用。(3)デュアルストリーム(H.239)は、1080p/30fps に対応。(4)内蔵 MCU は最大9拠点接続に対応。(ソフトウェアオプション)。

VTV ジャパンでは、SCOPIA XT1200 を専任技術員による自社対応保守サービスと共に提供するという。

サムライズ、アドビ システムズ社製 Web ソリューション「Adobe Connect 9」の国内販売を発表

株式会社サムライズ(東京都中央区)は、アドビ システムズ社製 Flash 技術採用の Web 会議ソリューション「Adobe Connect」の最新バージョン「Adobe Connect 9」を発表した。(6月22日)

Adobe Connect は、Web 会議、e-Learning、Webinar をシングルプラットフォームで実現する。Adobe Connect 9 の国内販売については第三四半期(2012年6月~8月)に開始する。

Adobe Connect 9 の特長は以下の通り。(1)イベントセミナーページの作成:コンテンツ管理システム「Adobe CQ5」で提供されているカスタマイズ可能なページテンプレートにドラッグアンドドロップ機能を使い、イベントセミナーページを素早く簡単に作成することができる。

(2)参加者のリアルタイムモニタリング:投票、チャット、音声会議、参加者ステータス表示などの情報をつかっ、セミナー内容への参加者の反応をリアルタイムに把握できる。

(3)グラフ化されたイベントレポートの分析:「Adobe SiteDatalyst」を含む「Adobe Digital Marketing Suite」との連携によって、参加者のエンゲージメントの分析やマーケティングプロモーションの効果測定を行うことができる。

(4)モバイル機能:「Adobe Connect Mobile 2.0」によって、参加者は、コンテンツを視聴するだけでなく、自身のモバイルデバイスからホワイトボードや注釈ツール、画面レイアウトの変更、音量調節、録画などの機能の操作が行える。

(5)SCORM 対応の e-Learning 機能の強化:SCORM 対応のコンテンツを作成すれば直接 Adobe Connect Server へパブリッシュできる機能強化を行った。

製品・サービス動向-海外

Vidtel 社、Skype と GoogleTalk をサポートするゲートウェイを発表

米 Vidtel 社は、Skype と GoogleTalk をサポートする「Vidtel Gateway(ヴィッテル・ゲートウェイ)」を発表した。(6月12日)

Vidtel Gateway は、遠隔会議サービス事業者(CSP)や付加価値再販事業者(VAR)、あるいは多地点接続装置(MCU)を所有している企業に対して、付加サービス(add-on service)として提供する。

この付加サービスは、既存の MCU や多地点接続機能に、Skype や GoogleTalk の接続機能を追加する。これにより、H.323、SIP、GoogleTalk、Skype などがお互いに通信が行えるようになる。

同社では、遠隔会議サービス事業者(CSP)や付加価値再販事業者(VAR)にとっては、競合他社への差別化を実現できるのではないかと説明している。

SPiRiT DSP 社、通信事業者やサービスプロバイダーや企業向け HD 対応マルチポイント テレビ会議ソフトウェアを発表

ロシアの SPiRiT DSP 社は、通信事業者やサービスプロバイダーや企業向け HD 対応マルチポイント テレビ会議ソフトウェア「VideoMost.com 2.0」を発表した。(6月13日)

VideoMost.com 2.0 は、ソフトウェアシステムで、「TeamSprit Voice&Video Engine 3.2」というビデオエンジンを搭載し、H.264/SVC HD ビデオ会議に対応する。ブラウザもしくは、専用のアプリケーションソフトウェア、または、アップル社の iPad での VideoMost 2.0 テレビ会議も可能。なお、iPad 向けソフトウェアは、アップルストアで提供されている。

テレビ会議機能の他には、会議予約や運営機能、スクリーン&ファイル共有、メール/カレンダー統合、テキストチャットといった機能、さらには、ブロードキャスト、SIPプロトコルによるシスコ/タンバーク、ポリコムなどのテレビ会議システムとの接続、ブロードキャスト(配信)/レコーディング API、LDAP などの機能も提供している。

ビジネス動向-海外

Vidtel 社と ZTE USA 社、クラウド型ビデオ会議サービスで提携

米 Vidtel 社と ZTE USA 社は、クラウド型ビデオ会議サービスで提携したことを発表。(6月13日)

ZTE のビデオ会議システム「T800」「T700」「T100」に対して Vidtel 社の「MeetMe」ビデオ会議サービスを提供するとともに、共同マーケティングを展開する。

これにより、ZTE 社のビデオ会議システムは、Vidtel の MeetMe サービスを介して、シスコ/タンバーク、InFocus、ライフサイズ、ポリコム各社の H.323 や SIP 端末とのビデオ会議が行えるようになる。

今回の提携の目的は、ZTE USA 社の販売代理店が、SME ユーザに対してより効果的に販売活動が行えるところにある。Vitel 社のサービスによって SME ユーザは MCU など高コストなインフラ装置の購入も不要となる。また、低コストでわかりやすい料金体系のため SME ユーザに受け入れやすいという。ZTE 社のビデオ会議システムは、1080p に対応。これまでに 10 万台の端末を出荷しているという。

Arkadin 社、中国の Beijing Unicom 社とコラボレーションサービス提供で提携

Arkadin 社(アルカディン)は、コラボレーションサービス提供で中国の Beijing Unicom 社(北京ユニコム)と提携したと発表。(6月13日)

Arkadin 社の提供するコラボレーションサービスを中国国内において、Beijing Unicom 社のブランド「iConf」で提供するもの。「ArkadinAnytime」音声会議サービスは「iConf Audio」、 「ArkadinAnywhere」Web 会議サービスは「iConf Web」、そして「ArkadinEvent」は「iConf Event」として Beijing Unicom 社は、コラボレーションサービスを提供する。

Arkadin 社としては、各地域の通信事業者とのパートナーシップが国際戦略を展開していく上で要とらえている。また今回の提携により、アジア太平洋地域での同社の存在を強化するものと期待している。

Arkadin 社は、世界 27 カ国に拠点をもつ電話会議・Web 会議・ビデオ会議・イベント会議のサービスプロバイダー。2004 年には日本法人を設置。2011 年には関西営業所開設。

導入・利用動向-国内

日立ハイテクノロジーズ、テレビ会議システムを利用し被災地の子供向け特別授業を開催

株式会社日立ハイテクノロジーズ(東京都港区)と大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台(東京都三鷹市)は、日立ハイテクが販売するテレビ会議システムを利用した特別授業を開催したと発表。(6月13日)

日立ハイテクは、事業活動を通じた社会貢献(CSR)の一環として東日本大震災の復興支援を実施している。その中で、同社が販売している LifeSize 社製テレビ会議システム 12 台を国立天文台に寄贈した。

また 5 月 12 日には、宮城県石巻市北上中学校と国立天文台ハワイ観測所をテレビ会議システムで中継した「第一回 星・宇宙を身近に感じる特別授業」が開催された。



特別授業の様子(左)と寄贈したテレビ会議システム(右)
(日立ハイテクノロジーズ資料)

特別授業では、全校生徒約 100 人が参加。国立天文台は、北上中学校の生徒にテレビ会議システムを通して、すばる望遠鏡や金環日食が起きる仕組みなどを紹介した。なお、国立天文台に寄贈したテレビ会議システムは、今後、被災地の小中学校、病院等に設置する予定という。

日立ハイテクでは、今回の被災地復興支援のほか、インドネシアの各地で電気、水、通信インフラ整備に関わるプロジェクトなども展開しているという。

LifeSize 社製テレビ会議システムの担当窓口は、同社 商事統括本部 産業ソリューション第二営業部 スマートコ

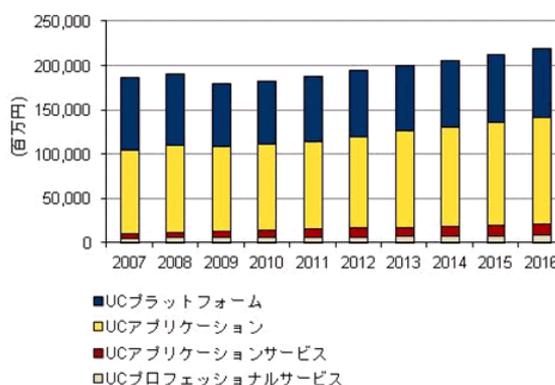
ミュニケーション部。

国立天文台 <http://www.nao.ac.jp/>

市場動向-国内

IDC Japan、国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーション市場予測を発表

IDC Japan 株式会社(東京都千代田区)は、国内のユニファイドコミュニケーション/コラボレーション市場について、2011 年の分析と、2012 年から 2016 年までの予測を発表した。(6月12日)



国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーション市場セグメント別売上額予測: 2007年~2016年(IDC Japan 資料)

2011 年の市場規模は、前年比 2.3%増の 1,871 億 9,100 万円。同年は、東日本大震災やタイ洪水、急激な円高など国内経済を押し下げる事象が多数発生したが、市場への影響は最小限にとどまり、2011 年通年ではプラス成長となった。

一方、2012 年は、タイ洪水の残存影響や電力供給の見通しに対する不透明感にもかかわらず、大震災以後の設備復興や事業継続対策に関連した需要にくわえ、モバイルデバイス、ソーシャルネットワークワーキング技術の広がりが後押しとなり、通年では、前年比成長率 3.7%となると IDC では予測している。

さらに、2013 年以降は、景況感の回復、企業モバイルソリューション/ビデオコラボレーション/ソーシャルビジネスなどの新たな市場けん引要因によって、2011 年から 2016 年の年間平均成長率(CAGR)は、3.2%で拡大し、2016 年には 2,192

億 2,400 万円の規模になると予測している。

今回の発表は、同社が発表したレポート「国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーション市場 2011 年の分析と 2016 年の予測(J12380103)にその詳細が報告されている。詳細は同社へ確認要。

IDC Japan <http://www.idc-japan.co.jp/>

セミナー・展示会情報

< 国内 > <http://cnar.jp/cna/event-j.html>

会議の効率化を実現！『ConforMeeting 無料体験セミナー』 定期開催

日程：7月18日(水)、25日(水)

※全ての日程で 13:30～14:30、15:30～16:30 の 2 回開催

会場：NEC 情報システムズ 本社(東京都港区)

主催：日本電気株式会社、株式会社 NEC 情報システムズ

詳細・申込：

<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

7月18日開催 【"見える"カレッジ】セミナー in 大阪

日時：7月18日(水)14:00～16:30 (受付13:30～)

会場：野村コンファレンスプラザ(大阪市中央区)

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：<https://vcube.smktg.jp/public/seminar/view/23>

『ビデオ会議システム 円滑運用ノウハウ』ご紹介セミナー

東京・大阪同時開催 ～複数メーカー新旧混在、タブレット

端末からの接続を実現して既存システムを有効活用～

日時：7月24日(火)14:30～17:15

会場：シスコシステムズ 本社(東京都港区)・大阪オフィス(大阪市北区)

主催：パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社

共催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：

<https://event.panasonic-denkois.co.jp/public/seminar/view/250>

定期レポート 電子ブック版

CNA レポート・ジャパンでは、毎月2回業界ニュース(定期レポート)を 1999 年から発行しておりますが、この度、カタログスクウェアさんに、2003 年から 2011 年までの定期レポートを1年毎に合冊していただきました。2012年は1号毎です。

CNA Report Japan アーカイブ 電子ブック版

2003年-2011年

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

2012年

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/2012/

定期レポート(PDFファイル)は年間23号発行されておりますが、電子ブックによって1年分を一度にダウンロードできこれまでのように1号毎にPDFをダウンロードする必要はありません。もちろん今までのPDFもアーカイブしています。

電子ブック版は、本のページをめくるようにとても読みやすくなりましたし、また1年単位ですが全文検索もしやすくなりました。定期レポートの読者の皆さんにとっても良いのではないかと思います。

ちなみにこの定期レポートは私にとっては、遠隔会議のリサーチの一環としてまとめているものでもありますし、また、私自身の活動を広げていくための機会への窓口にもなっています。

カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

*遠隔会議業界で長くお勤めされ、今年電子カタログ・ソリューションで起業された方が経営されている会社です。

*この電子ブック版についてご意見等ございましたらよろしくお問い合わせいたします。橋本宛 cnar@cnar.jp

dtc-forum、ツイッター、フェイスブック

ツイッターとフェイスブック、dtc-forum を通して遠隔会議関係のニュースなど関連情報を日々配信しています。よろしければご覧ください。

>dtc-forum メーリングリスト

<http://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

> Twitter

日本語版：<https://twitter.com/cnarjapan>

英語版：<https://twitter.com/cnarjp>

> Facebook

「テレビ会議・Web 会議・電話会議 & ユニファイドコミュニケーション研究会」

<http://www.facebook.com/unifiedcom>

編集後記

今号もお読みいただきましてありがとうございました。

Youtube では、InfoComm 2012(6月中旬ラスベガス開催)に出展した遠隔会議企業の映像が結構投稿されていて、会場の雰囲気が伝わってきます。”InfoComm 2012”などで検索すると出て来ますのでご覧になってみるとよろしいのではないかと思います。

次号もよろしくお願い致します。 橋本啓介